

高野山大学 授業設計と成績評価ガイドライン

高野山大学では従来の「評価基準」を作成するとともに、教員と学生間の成績評価の認識を共有することを目指してきました。「評価基準」以外の事項もシラバスに記載してきました。しかし、学生の学修意欲をたかめ、学修成果の向上させるのには十分ではありませんでした。

そこで、「成績評価の基準表」だけでなく、「授業別ルーブリック」を作成することにしました。「授業別ルーブリック」は、担当教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するものです。

- 1 評価基準 →各教員の成績評価のグレードの認識を統一する。
- 2 授業別ルーブリック →教員と学生間の成績評価に関する認識を統一する。

1 評価基準

合否	評点	評語	GP	判定基準
合格	90 点以上	S	4	授業の到達目標を達成し特に優れた成績である
	80 点～89 点	A	3	授業の到達目標を達成し優れた成績である
	70 点～79 点	B	2	授業の到達目標を概ね達成している
	60 点～69 点	C	1	授業の到達目標を最低限達成している
不合格	59 点以下	D	0	授業の到達目標を達成していない
失格	999	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認定	888	N	対象外	編入等で単位を認定した

2 授業別ルーブリック

授業別ルーブリックとは、各授業において学生が何を学修するのかを示す【評価観点】と、学生が学修到達しているレベルを示す具体的な【評価基準】を示す表形式の評価指標です。

評価基準 評価観点	合格				不合格
	S	A	B	C	D

各授業は、学科ごとの教育目標であるディプロマポリシー(学位授与の方針)の一部を担っています。シラバスの「関連 DP」は、その授業が担っているディプロマポリシーです。各授業の到達目標は、「関連 DP」にもとづいて作成されています。【評価観点】の欄には、到達目標の項目 1 つずつ記載してください。【評価観点】と【評価基準】が交差したマスに具体的な到達目標を書いてください。

到達目標は、学生にも分かる短い文で書いてください。

- ①主語を学生として、習得する資質は「～できる」で表現してください。
- ②学生が習得したことを評価できる一資質は一文で表現してください。
- ③資質は習得したことが外部から判断できる表現にしてください。
- ④記述の際には専門用語を多用しないでください。

目標に使う動詞 (～できる)

①知識の領域	説明する	述べる	予測する	批判する	評価する	例を挙げる
	比較する	解釈する	結論する	使用する	類別する	関係づける
②態度・習慣の領域	参加する	行う	見せる	示す	始める	
	配慮する	表現する	強調する	寄与する	反応する	
③技能の領域	工夫する	準備する	行う	測定する	動かす	
	実施する	調べる	操作する	感じる	模倣する	

【共通ルーブリック】

授業別ルーブリックは、ディプロマポリシーやカリキュラムポリシーに基づいて設定された各授業の到達目的に応じて作成されるものです。しかし、授業別ルーブリックに慣れていない教員もいますので、授業形態別（講義、演習、実習、調査研究）と、レポートおよびプレゼンテーションの共通ルーブリックを作成しました。共通ルーブリックを各授業に合うように修正して利用いただければ幸いです。

①授業形態：講義

評価観点	合格				不合格
	S	A	B	C	D
理解度（ %）	授業内容を超えた自主的な学修が認められる	授業内容をほぼ100%理解している	到達目標は理解しているが、授業内容に不足あり。	到達目標に達していることが認められる	到達目標に達していない
課題解法能力（ %）	解法が分からない他人にアドバイスできる	何も参照せずに独自の能力で課題を解くことができる	参考書などを参考すれば、独自で課題を解くことができる	他人のアドバイスがあれば課題を解くことができる	他人のアドバイスがあっても自発的に課題が溶けない
調査能力（予習）（ %）	自ら進んで予習範囲を超えて調べている	予習範囲を十分に理解し、他人に説明できる	指示した予習範囲の理解にあまりない点がある	指示された範囲は予習するが理解が不十分	指示された範囲は予習が不十分である

②授業形態：演習

評価観点	合格				不合格
	S	A	B	C	D
課題を解く力（ %）	独自の力で課題を設定し、課題を解くことができる。	文献等で調べるなどして課題を見出し、自主的に独力で課題を解くことができる。	指導・助言等を受けて課題を設定し、課題を解くことができる。	指導・助言等を受けて課題を設定し、課題を特に指導・助言が必要であった。	課題を見出せず、自ら課題を解くこともできない。
解決した内容を口頭で表現し説明する能力（ %）	解決した内容を聴衆に伝わるよう工夫し、口頭で魅力ある説明ができる。	解決した内容を補足しながら口頭で説明できる。	解決した内容に課題はあるものの、口頭説明できる。	解決した内容に課題があり、口頭説明も十分でない個所があった。	課題学習にまったく取り組めず、口頭説明できない。
解決した内容を文書で表現し説明する能力（ %）	解決した内容を、他者に対して説得する明確な文書に表現し説明できる。	解決した内容を論理が通る文書で表現し説明できる。	解決した内容に課題はあるものの、文書に表現し説明できる。	解決した内容に課題があり、表現した文章にも十分でない個所があった。	課題学習にまったく取り組めず、文書に表現し説明できない。

③授業形態：実習（習得した知識やスキルを活用し、臨床現場での体験学習に取り組む実務実習の授業）

評価観点	合格				不合格
	S	A	B	C	D
課題を解く力（ %）	自ら進んで実習に関する内容を調べることができる	実習内容を十分に理解し、他人に説明できる	理解にあまりない点があるが、予習ができる	実習内容の予習をすることができる	頻繁に実習内容の予習を怠る
解法を口頭で説明する力（プレゼン内容）（ %）	他人をリードする態度で実習を進めることができる	自発的に実習を進めることができる	手順書を見れば、内容を理解して実験を進めることができる	手順書に従って正しく実習を進めることができる	手順書に従った実習が進められない
解法を文章で説明する力（レポート内容）（ %）	自ら調べた内容を含めることができる	実習から得た自らの考えを正確に伝えることができる	他人が実習内容を理解するに十分な記述ができる	実習で得たデータを正しく他人へ伝えることができる	データの整理や説明が不十分である

④授業形態：調査研究（卒業論文や卒業研究など）

評価観点	合格				不合格
	S	A	B	C	D
テーマの選択 (%)	実社会の必要性を考えたテーマを選ぶことができる	調査計画も考えてテーマを選ぶことができる	自分の考えからテーマを選ぶことができる	指示された範囲内のテーマを選ぶことができる	指示された範囲内のテーマを選ぶことができない
調査の内容 (%)	新たな手法を用いて結論に至る調査を実施することができる	自発的な論理展開に必要な調査を実施することができる	論文の展開に必要な調査を全て行うことができる	指示された範囲の調査は正しく実行できる	指示された範囲の調査が不十分である
論文の記述内容 (%)	他人が気がつかない観点で自分の考えを記述することができる	自らの考えを正確に伝えることができる	調べた情報から他人が理解するのに十分な記述ができる	調べた情報を正しく他人へ伝えることができる	調べた情報を他人へ伝えることが不十分である

⑤レポート・ループリック

評価観点	合格				不合格
	S	A	B	C	D
①課題意図の理解と、それに沿った記述内容	課題意図を十分に理解しており、レポートの記述内容が課題の要件を過不足なく満たしている。	課題意図を理解しており、レポートの記述内容が課題の要件をおおむね満たしている。	課題意図を理解しているようだが、レポートの記述内容が課題の要件を満たしていない箇所がある。	課題意図を理解しているようだが、レポートの記述内容が課題の要件を満たしていない。	課題意図を理解できておらず、レポートの記述内容が課題に沿っていない。
②資料の内容の適切な把握と、十分な検討	資料に関して、その内容が把握できており、論に沿ってまとめられている。	資料に関して、その内容が把握できており、まとめられている。	資料に関して、その内容が把握できているが、まとめきれしていない。	資料に関する記述はあるが、その内容を把握できておらず、まとめられていない。	資料に関しての記述がない。
③自分の立場や意見を説得力のある論拠とともに提示されている。	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できており、かつオリジナリティがある。	自分の立場・意見が、論拠とともに提示できている。	自分の立場・意見は提示しているが、その論拠に不十分さがある。	自分の立場・意見は提示しているが、その論拠が明らかでない。	自分の立場・意見が提示されていない。
④文章全体の構成が、序論・本論・結論などに沿った構成が形式的にできており、かつ内容的にも一貫している。	序論・本論・結論などに沿った構成が形式的にできており、かつ内容的にも一貫している。	序論・本論・結論などに沿った構成が形式的にできていない。	序論・本論・結論などに沿った記述はみられるが、形式的に欠けている部分がある	序論・本論・結論など等に沿った記述をしているが、形式的に欠けている部分がある。	序論・本論・結論などに沿った構成ができていない。
⑤用語の定義、引用のルールなど、学術的な作法	満たしている項目が、5項目である。	満たしている項目が、4項目である。	満たしている項目が、3項目である。	満たしている項目が、2項目である。	満たしている項目が、1項目以下である。
⑥日本語の文章として、表現・表記が適切であるか。	満たしている項目が、9項目以上である。	満たしている項目が、7～8項目である。	満たしている項目が、5～6項目である。	満たしている項目が、3～4項目である。	満たしている項目が、2項目以下である。

⑤学術的な作法

- 1 表題、所属（学籍番号、学部、学年等）、氏名の基本的な情報が記されている。
- 2 出典を明示しており、自分の意見と他者の意見を区別している。
- 3 本文中の引用方法について、ルールに従って表記されている。
- 4 巻末の文献表があり、分野ごとのルールに沿って表記されている。
- 5 専門用語の定義付けや使い方が適切である。

⑥日本語の表現

- 1 誤字脱字がない。
- 2 文法の間違いが無い。
- 3 一文の長さが適切である。
- 4 文体が統一されている。
- 5 主語・述語が呼応している。
- 6 句読点の使い方が適切である。
- 7 段落の作り方（一字下げ、行替え、長さ）が適切である。
- 8 重複表現（接続詞、文末）がない。
- 9 論文では避けたい表現（隠語、俗語、口語表現）がない。
- 10 ページのレイアウト（行数・文字数、余白、ページ数の付与）が適切である。

⑥プレゼンテーション・ルーブリック

評価基準 評価観点	合格				不合格
	S	A	B	C	D
主張・論点の提示	主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。また、主張の独自性も高い。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で十分に提示しており、伝えたい内容の要点を過不足なくまとめている。	主張や論点を明確にテーマに沿う形で提示しており、伝えたい内容の要点をまとめている。	主張や論点とテーマとの関連が認められるが、明確でない形で提示している。	主張や論点とテーマとの関連が認められず、主張や論点が不明である。
プレゼンテーションの内容・構成	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話しており、準備段階で十分なりハーサルを行った成果が見られる。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で明確に話している。	プレゼンテーション全体を通して、筋道の立った順序で話している。	プレゼンテーション全体を通して、一部筋道の立った順序で話している。	筋道の立っていない順序で話している。
視覚情報・資料の扱い	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容を明確にわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱っており、伝えたい内容をわかりやすく提示している。	視覚的な情報や資料を効果的に扱おうとしているが、伝えたい内容が伝わっていない。	視覚的な情報や資料を一部必要に応じて扱っているが、ツールの選択や使用に不適切な点がある。	視覚的な情報や資料を扱っておらず、効果的に内容をプレゼンテーションできていない。
態度	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、聴衆の反応を見ながら自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容を説得的にしており、自信をもって伝えている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの内容をある程度説得的にしている。	話者の発表態度がプレゼンテーションの目的・聴衆との関係に応じた態度で話している。	プレゼンテーションの内容が伝わりづらい発表態度である。話者の発表態度に聴衆に対する不誠実さが見られる。

事例) 密教学科基礎ゼミ

達成目標	合格				不合格
	S	A	B	C	D
①自主的な学習態度を獲得すること	授業内容や、新たな知識や技能に関心を持ち、自主的に学べる。	授業内容に対して興味・関心を持ち、自主的に学べる。	授業内容に対して興味・関心を持ち、時々自主的に学べる。	授業内容に興味・関心を持つが、自主的に学ぶことができない。	授業内容に興味・関心が持てず、自主的に学ぶことができない。
②課題発見能力を高めること	重要で新しい課題を発見し、解決のために、具体的な作業計画を立て、実行できる。	新たな課題を発見し、解決のために、具体的な作業計画を立て、実行できる。	新たな課題を発見し、解決のために、具体的な作業計画を立てるが、実行できない。	新たな課題を発見できるが、解決のための具体的な作業計画が立たれない。	新たな課題を発見できない。
3) 資料(情報)の検索・収集・整理に関する基本的な技能を習得すること	必要かつ信用できる情報を適切に収集し、他人が活用しやすく整理できる。	必要かつ信用できる情報を適切に収集し、自分が活用しやすく整理できる。	必要かつ信用できる情報を適切に収集できるが、活用しやすく整理できない。	必要な情報を適切な方法で収集できるが、信用できない内容も含まれている。	必要な情報を適切な方法で収集できない。
4) 基本的な文章構成力・発表能力・討論能力などを獲得すること	自説をレポートや口頭発表で正確に、分かりやすく説明でき、批判に反論もできる。	自説をレポートや口頭発表で正確に、分かりやすく説明するが、批判に反論できず。	自らの考えをレポートや口頭発表で正確に説明できるが、分かりにくい点が多い。	自らの考えをレポートや口頭発表で説明できるが、不正確な内容が多い。	自らの考えをレポートや口頭発表で説明できない。